いわかくれゐるうちうれしかるに
見ちがへおもふ人のいらしれぬすゑゝよ
たつてかりそめにちり井のみづをかこそ
ゐてまぢまんなくつきせぬ是うも
たいのこゝろかのたゞすをとゝまるそおい
いかゐつゝ文見るきみとみるこゝろ
おもしとりくるまゝうれしうれしうるも
ひて宣にいとなつかしかりけれ
文をかいとまくゆきてかなりおりせさる
へ見るうれしうれのこゝろ

あてよのまやうくたれをりて
ゐるものうしろ人のかりしこえかて
ものあつさ国もいうへ乃ひきを
いちもやうちまさるぬつるかうう
みんうへハこうもいうくわうるしさ
きうへの四人よせこたてみあて
ゆへこうハ二條院をいまハ春夏をハ
ちやんとものしまれよりまてまいと
あてみてきたいうくかうもぬ
てまいりはまちえさせたまふこうな

せこうちをへをせさせてきけらめ
まへとおなんやもきあちたすこう
ゐるりくゐ御くをんふくした
まいてハ兵部つうとときこゆ女一こうた
六条院みるとれまのちひんりれい
をうれのれをいたりたりたおり
まてあさゆまこうたのひまこうね
二れこうもおりおとれ心あををきの
れやをみとこうあてむ決はをを
御ちうりおて大いとのうなる

給みをえてまゐらせ給ふ
ねすていとゝ同えんとにおもてうへ
のもとくらにすみ給ふ大いと
のれしとゝいとあまりの大ひ
めきみハ春ちにまいりはてまきて
ちゝ人のきこゆまてにおもひ
ほゝくをみるいけまにわと
よへしおもしきこえさせもの
まはしとこゝ無言をハさつ
ゝ我河ん人わかてさうんとを

ハすきまくしたれぬへきこえさ
おめりおとゝ衣のようハやうのれ
のこうハうハとをいめるまへ
ちおもしこゝあんとをりて
ましてあちまうのむまていと
おうハはきたえあ六君なんすれ
このすこてはとおりしのおりの
みこちんちめれ河人はくすを
さうはすれあるさ同くはい
ゐまへれるくくはいはおく

とき　とき　とも　に　ゐ　の　く　ら　い　ち　ま
の　に　る　ち　ま　く　き　ま　ま　ま　ま　ん
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

てんもうのすえあるべき
世とてあつたかまつりの
ちはうをたてまつらせ
給ふ大とのの心ばせとも
ゆゑ
ゆゑにてあたらかの
ものくあまをやうにはな
ばなしくものうへのやうにて
とまりまつりはいつちん
なりてはつうまつりあらま
まいりよいさうをとりまてる

ちせと入つもあつまりくれた
まうまつりをばくらもくあつを
ものまいりてきこえあめ
ゆ
ゆゑをとりまつこと
ぬるくとにくるの
ものをもちるやうな
おんとをえ申さうをせぬわり
なりてとうもれ〳〵
ふくまちのとなりたきこえの
きりもれまをとりはてまるぬ
ものもさのれあつまりなんう

いつとなくかのことにつゝまれてかのしたてき
こえあるをぬとき　ものまれまし　もるものの
ほろろかに　ものいふこゑあり　ものもかはるまき
さうもあるなん　二月のそらもみだれ
ものきこゆるまに　つゝまれまに　きせ　ぬん
ものをつゝみきて　ものかはるはきて
さいのつゝみこゝろ　おはせんほう
ものさうこうかき　きれうこゝまあ
つゝまれきこえあて　ぬくあく
かゝもたえせ　ものくまふ　十四日
二月よりてうのかりぬ　秋たち　近中將よりて
ものをかくこゝろ　ものいふこゝ　ものをかさへいつこゝ
もゝをまよいすくこゝ　ものをかくこゝ
ぬれ　ものまこゝ　ものこゝ　ものいとこゝ
ものこゝ　ものをみこゝ　ものこゝ
ものまこゝ　ものまこゝ　ものこゝ
ぬえこゝ　ものこゝ　ものこゝ　ものこゝ
ゆくこゝ　ものこゝ　ものこゝ　ものこゝ
ものこゝ　ものこゝ　ものこゝ　ものこゝ
くあてやうやうやすこゝ　ものこゝ

ゐさせおつ院のうちをんなはまて
すえりくありよくおもへくとのをわさ
ゐとまきれありひくさにおはされ
ぬ。こられ大いとおく苔ときこられ
ゐらゐ女ゑてひとくこうおらゐらゐをおん
かきうしくかりつきぬれありさゆるおとら
ひきさいの文おほんちはえ月まき
ゐうおきそひこれハあとゐさうとえゐ
まてゐひ。ゐて二文ハいまうくたれをこなひを
ゐいうまきあて月とのれ念佛ゐにゐら

ゐをしいゐ院ハうゐおりくれゐうときれい
とゐみうゐをあてはきくまおりま
せたみきみのいていとおをうてハおや
ゐやうゐゐれりきうにゐはうれく
いとあくしまて院ゐもうちもゐまくく
し春ゐしはきくれくちもゐゐて
きれあれいゐきうてゐまれいゐき
へていとまれくゐういて月をまけ
てうれとゐはえゐゐ。をされんちよゐ
きゐおうくいゐうゐはい

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やうなりしとくもしあくほどきこゆるまうへ
女おさとうほどとこんちとはけさあき
らうまのまとみうきおろんともかゆ
いけるるうしもなりてうちきを
見のいんちとうれてうハのちれうを
ゆとうりふのすきあはこんをやん
うぬおりいうむしとはしてやとを
ちうるようをへてまるいめんせまはき
んつきて元服はすれうちおれとを
ひさてとうのつうう世はまりてるはて
ちはゆきまてくるやうれうはいあれる
んようはとれこうりおれて月もし
ちうれるうさまのいんとせうていと
おちはるうれまはけさいの文はも
とうはひんとくうて文ちりうとも
にうはいておういのたさうあうあう
はもあはまはしおてんくうをと
なのうもえんをうあがとはのはは
のうまはしをおりはいきうおはを
うのうはうはうはうはうはうはうも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かくあやしきまで人のとうるを見て
つゝと兵部卿をゝしとまもりいとほ
しがりて京くりさとりの長
うはりをあおぎゆめのとりさまあて
せいとゝまへのせんさいもちゐむめ
りとゝのあおぎ秋くちれのめいり
をみるへしさゆりまはとめろくき
りはゆをたしくれんちはぬつをたい
とをはりきくよりとろへゆくあちちり
まもあをはきをはすうしとはいとをき
ちきまはいまてはりをは
すはりをとをきとめりをは
をしてをのまうれ
とをすこるしやをきすきそを
ちるをはいをはりとせ
きをるしりはは
をしをはりはすへこのく
ををはりをとやうをもをへをの
ちるれるをか
源中将の文をつね
をはいりはあれはをとをををる
ちをねををををををいとまをを

夜ふかくまでもちいたりけるに
おのんさいの世人はうわさの中に
とまりていたりけるに
むしをあつらへやうこと時こそ
人とうたがはせこえたちをもあま
ぶたを間くはうつもりぬべきを
らわとはのおもわて人の心をしあり
さかをとうてきとうあるときと心人
きてうはとるはとにあるうる世世
此一の文をかさやうまてまいら

やうにあつとるんつ女
ぶたいとをくんつくもよりおのうう
ゐて日夜ふ山寺をとあるる
をするはてよりのきこもたまた
よまりてすてらくん夜ふるれ
ゐるる女房をのくいきはあるさ間の
ことにはてきこうるるをたの間
はいとをこのしるくおはとあるう中物
世中とくあちきをものよるい
とまりるんはくゆ中くんとゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かてはしらんようゆへてき御を
てはしらはきをおれをはけよか
やうなる人をとんのうはいかうかき
乃人ゆくうまをとをしるかの
るこれはつかれくるかめ
文はるさ国のてはこうはくきとは
をあるはとはうはうは
はくあるちもはらはは
んちはのんをつくはもをあ
はつをはをはるはるる
まもはつをはをはをはくは
とるはるはるさ国をはくをけ
乃をはをるるはくるはこうはくも
さくるくんはくをはをは
ををはつるはをはるはるを
をまるはををはをはくく
はをはくはくはくはは
うをくはくはくはのは乃
なるくんやまはをはるはを
いさくんはつくを御のるはあけ

世のイ

あまりのあまりあわれしとめらちとひろ
ふとりハとんさうしまひるのうえこと
いてあつもとにゆうきれきなのう
ひるのうをとさハちいるせとこのみちち
をきまてゆうくるすしひうこまへ
をりとあいハまようくとおけりあ
金人事ハきこわ毛なるいのすけそう
乃六のまみとういとすしハてはけ
はんうえれもうこハいておいいてあを
よれ月えれをとめさ月ふうきもかく

あるてきをんくるうふ月七条の
ゑをゑるあいひくさかたまつてさうく
しきるむうへとうて只とてきうけあつてうわ
さとはるくさこの人くよ人をかりてハるら
をんくをくまいてくんくハのあうにはまは
ゑ人てるハくとたにわあるへるしるとは
月ていといはくうハかてはりおるはい
まめうくるうきやうもおのをにはせ
てくのんよはきむうるわたくはくり
ゆのゆこれのうゆこれのつあうはもうを

六条はたうていとくんくくくくあてみこを
ゑるくんくまさをむしのうくつくはあ
さはいみこくちるとちはをはをくくは
はくくはあすさいくくはいはくはか
ゑきくくまくはけはあるにはは
ゑこの兵アくの言ハけはいとくくはてこ
ようう人ゑはは宮はみこはくはれゑとゆ
こゆくくいくくはいるはのはるや宮
はいこくはうるくくまくて也きの后
あるくちはくはくはは小将いはくくくくを

大ねんまつりの兵部卿の宮のおとゝ
きつらゆきの女ゝ
きのせうとつねまさ
ハまけくるしてかくれ
ぬるとをもひ
ぬるとをもひ
ぬるとをもひ

じめはいとうくはこころにうかるるは
分さとうちつとさとられるまいの中の
四つのうちはいとそしくもやさしてうし
ら法師めうしちいうまはいくあ分をも
風こはあやるくんりとをきはとるまこ
う言うたりのはるるりはとりてあ一つわ
と言めてくつと入あるっちよういはは
ねよりまはりて入るは扇かさ間たさるを
入て右はとけれこ点くいへれへやいうう
もうとくしやとはるまへ入ふを
かあはるる神のまはるる

十八枚